

演 題 “こどもが「ひとり」になれるとき”

講 師 評論家 芹 沢 俊 介 氏

芹沢俊介氏のプロフィール

- 1942年 東京生れ。1965年上智大学経済学部卒業。評論家
- 半世紀近くにわたって文学（詩）、家族、子ども、女性、犯罪、宗教、死など幅広い分野で、評論家として活躍している。
- 1998年から児童養護施設、知的障害者施設等の施設長、職員、母親らと始めた「養育を語る会」での研究を基に、現代の家族や学校の切実な課題、子どもたちの問題を独自の視点で捉えている。会は隔月で開催され、誰でもが参加できる養育をめぐる話し合いの場として、今も続いている。2017年10月で109回目を迎えた。

【養育に関する著書】

- 「家族という意志」（2012年岩波新書）
- 「子どものための親子論」（2013年明石書店）
- 「養育事典」（編著 2014年明石書店）
- 「愛に疎まれて」（秋葉原事件の加藤智大について養育から考えたもの 2016年批評社）
- 「引きこもるといふ情熱」（2002年雲母書房）
- 「存在論的ひきこもり」論（2010年雲母書房）
- 「子どもたちの生と死」（筑摩書房）
- 「子どもたちはなぜ暴力に走るのか」（岩波書店）
- 「いじめの時代の子どもたちへ」（共著、新潮社）等